
■ さろん | Mail News 2016/5/15 | #67 ■

(*Bcc でお送りしています)

これまで「さろん」にお申込・ご参加された方にご案内しています。
ご案内不要の方はお手数ですがこのメールにそのままご返信ください。

哲学カフェ及び関連イベント情報をお送りします。
みなさんの興味・関心の一助としていただくとともに、
今後とも「さろん」を応援いただければ幸いです。
なお、このメールニュース掲載のコラムは執筆者の個人的な考えを表したものです。
会や専門領域における統一見解や事象を扱っているものではありません。
予めご了承ください。

=====Vol.67 2016年5月15日(日)=====

さ | ろ | ん |
└ ─ ─ ─

M | a | i | l | N | e | w | s |
└ ─ ─ ─ ─ ─ ─ ─ ─ ─

<http://salon-public.com/>

(バックナンバーはHPからご覧いただけます)

<https://twitter.com/salontetsugaku>

<https://www.facebook.com/salontetsugaku/>

【さろん哲学、参加費の設定について】

読者の皆様へ

弊会は、従来、さろん哲学(哲学対話)の参加費を実費ベースとしてきましたが、
この度、会の継続的な運営を考慮し、苦渋の決断でしたが、
300円/人程度を頂戴することとしました。
何卒みなさまのご理解、ご協力をお願い致します。

開始時期 : 2016年5月期開催の「さろん哲学」より

参加費相当額 : 300円/人程度(飲食費別)

さろん

代表 堀越睦 拝

岡：「感情とは何かといたら、わかりにくいですがけれども、いまのが感情だといったらおわかりになるでしょう」。小林：「そうすると、いまあなたの言っている感情という言葉は、普通いう感情とは違いますね」。岡：「だいぶん広いです。心というようなものです。知でなく意ではない」。小林：「ぼくらがもっている心はそれなんですよ。私のもっている心は、あなたのおっしゃる感情なんです。だから、いつでも常識は、感情をもととして働いていくわけです」。岡：「その感情の満足、不満足を直観といっているのでしょうか。それなしには情熱はもてないでしょう。人というのはそういう構造をもっている」。小林：「そうすると、つまり心というものは私らがこうやってしゃべっている言葉のもとですな。そこから言葉というものはできてきたわけです」。

集合論での事例は、命題＝「あるモノは存在する」が排中律＝「任意の命題Pに対し、Pであるか、または、Pでないが成り立つ」を破っていると思え、戸惑うばかりである。この事例から、数学者は、「感情（＝心）がないと数学に代表される科学については学問は成立しない」と主張する。一方で、批評家は、「心（＝感情）は、言葉のもとである」と言う。さて。哲学対話では、対話において思考する対象、参加する他者、さらにその場に対して気遣いをすることが求められる。これをケア的思考と呼び、情を大事にしている。このことが、対話という枠組みだからではなく、他の学問と同様に言葉を使い、人が情熱を持って取り組む試みだからこそ要請されるということに改めて気付く。哲学とは分野が異なり、かつ唯物論が主流と思える科学から「心（＝感情）が必要」という言明を聞いて密かに喜ぶ。

- *1) 小林秀雄・岡潔著：「人間の建設」
- *2) メヒティヒカイト：数学用語としては数量の大きさをいう語。ここは集合論における「濃度」のことがいわれている。
- *3) アレフニユル：無限集合で最も要素の数の少ない「自然数の集合」の濃度をいう。
- *4) コンティニューイティ：連続性。
- *5) マッハボーイ：岡潔氏の造語で「マッハ族」から転じた語。無茶なことをする若者、くらいの意。ここはアメリカの数学者ポール・コーヘンをさす。

▽【ハゴロモジャスミンの想像力（対話の余白から#07）】 セリンジャー

桜が終わって新緑が目に見え鮮やかな季節になりましたね。
陽光をきらきらと跳ね返して目に飛び込んでくる緑を、足を止めてよく観察してみればそれぞれ濃淡があって、同じ淡緑にも葉の形状によって実に違った印象を受けます。歩道に植えられている落葉樹の若葉、その樹の根元に生えているヒメジョオンやシロツメクサの柔らかい緑、セイタカワダチソウの堅い緑。どれもが違った色として目に映るではありませんか。雨上がりなんかはサランラップをまとっているかのように乱反射している生命力の萌え出る

さまに頭がクラクラしてしまいそうです。

小川流れるほとりや低湿地沿いを歩くときには、昔から好きなあのオオイヌノフグリの淡く碧い可憐な花をつい探してしまいます。(犬のキンタマなんてひどい名前が付いたのはなぜなのでしょう！)

ところで、こんな風に春の植生を感じる時、いかに視覚が際立っているのかということを考えてみたことがあるでしょうか。新緑の彩りを堪能することは眼福であることに違いはないですし、それはとても素晴らしいことだとは思いますが。ただ、あまりにも鮮やか過ぎるというか、視覚情報で強すぎるんですよね。春を<観察>するならそれでまったく構わないのですが、春を<感じる>とか<包まれる>ってことをしようと思うと、見るだけでは物足りなくなるんですよね。

これくらいの陽気になるとよく写生をしている人たちを見かけますが、あれってすごくいい季節との付き合い方だなと思います。風景を詠むのもいいですよね。写生(文)の本質は観察ですが、科学的な観察だけではない<表現>の余白がそこにはあるっていうのが、たまたまなく豊穡な感慨をもたらすと思いませんか。

個人的には、外気が暖かくなってきて夜に散歩するのが好きです。そうすると感じるんですよ。どこからか夜の風によって濃厚な甘い薫りを。陽射しのなかで新緑を見ているときには気づかなかった晩春の別の顔を——。数年前、あんまりいい匂いだったので人の家の生け垣周辺をウロウロと文字通り嗅ぎまわって薫りのもと(だけ)を写メして調べたんです。ハゴロモジャスミンの花でした。朽ちかけて茶色い染みもできながらでもいっそう強く放たれるその白く細い花卉からの薫りが、ほの暗い夜の底を濃密に満たしているのが匂いを通じて手に取るようにわかりました。この瞬間、視覚とは違う嗅覚の存在をはっと意識しないわけにはいきません。ハゴロモジャスミンの想像力、と呼んでいます。ふだんは忘れていますが、この間夜道でこの匂いを嗅いで、一年ぶりにまた思い出したところです。

それにしてもガーデニングをしているようなお宅の方の中にはけっこうこの薫りの虜がいるんでしょうね。春がくると十数件に一件くらい、ハゴロモジャスミンを植えている御宅があって、この時期の夜はどうしてもそちらの道を歩きたくなってしまうものです。

この間BSで『晩春』をやっていたので録画して週末にそれを見ていました。もちろんモノクロなので、北鎌倉や上野、そして京都の風景に映える新緑の色を実際に見ることはできないのですが、だけど、やはり感じるんですよね。さまざまな緑の濃淡や点景を。いや緑だけではない多彩な色や香りを。たまたまデジタル修復版の放送だったのですがその技術力よりも、モノクロだったからこそ、想像力の奥深さにかえて感心してしまいました。

ところでこれもよく言われることですが、フィルムの中の笠智衆はずいぶん年寄りに見えて公開当時はまだ44歳なんですよ。あの線の細さが醸し出すんでしょうか。とにかくすごいです。父と娘のなんともいえない不器用な愛情のやりとりに、じんじんとしました。

自然の景色や文化的遺産の中にはなにかしらこういう、気分のいい発見みたいなものが多く得られがちです。でも当然そういうものばかりではないわけで、たまたま手にとった雑誌『本』に載っていた二本の対談はどちらもうんと思えさせられるものでした。伊坂幸太郎と佐々木敦の対談「面白い小説は“文学”ではないのか」では、エンタメは筋で文学は文体というよく指摘される二項対立を、絡み合いつつ崩していくような作家たちの活躍が新しい

ストリームになっている（伊坂幸太郎もその一人だと）と話し合っているのは、逆の意味で既視感がいっぱいではありました。

もう一本の対談、平田オリザと藤田孝典による「“これからの日本”を語ろう」は、同時代的イシューへの問題意識（と応答）を先鋭化させているお二人の話を目で追っているだけで暗澹たる気分になるものでした。でも 50 代半ばの劇作家と 30 代半ばの社会福祉士というまったく別のフィールドで活躍している男性の対談で、議論の中心が保育園とか子育てになっているのは、間違いなく『晩春』の時代には想像もつかなかったことだろうと思います。これってどんな暗喩なんでしょうか。

こんな風に生活の端々でキャッチした些細なこと（かもしれないけれど）気になるあれやこれやについて、たまには対話してみるのも大事なことですよね。なにが、どう大事なことなのかは擱筆しますが、そういうことを話し合える場所、市民なら誰でもアクセス可能な公共性を帯びた空間について、今月もまたつらつらと考え続けてみたいと思う次第です。

【おしらせ】

「さろんラボ」ではみなさんのやる気とアイデアを募集しています♪

名称：【さろんラボ】

コーディネーター：【大村】

「さろんラボ」、常設しています。

このさろんラボではみなさんの「やってみたい」を核に、

「さろん」を触媒にして、

どんな化学変化が起きるかを試みる場所です。

さろんラボは当面継続して設けていきます。

この「さろんラボ」からは、さろんの参加者の手で、

【さろんラボ 001】 「あたまの中を散歩するてつがくカフェ」

<http://sanpo-tetsugaku.jimdo.com/> が生まれ、

【さろんラボ 002】 「哲学カフェ Ante-table/アンティ・テーブル」

<http://ante-table.wix.com/ante-table> も生まれました。

既存の哲学カフェのカタチに限定せず、

みなさんの中で温まっている関心ごとやご興味を添えて、

どうぞお気軽に下記までご連絡下さい。

みなさんとの新しい化学変化を、スタッフ一同心から楽しみにしています。

▽詳細はこちらまで

salontetsugaku@gmail.com （担当：大村）

【2】特別寄稿

「あっちこっち紀行」 by くらち

(編集から)

さろんラボ 001 「あたまの中を散歩するてつがくカフェ」

でご活躍中のくらちさんからご寄稿いただきました。

ご自身でも会を主宰されている方ならではの視線と、
都心に居てはわからない場所（今回は「愛知県刈谷市」）の

イベントの様子をレポートして頂きました！

活動詳細はHPをどうぞ。 <http://sanpo-tetsugaku.jimdo.com/>

「あっちこっち紀行」 くらち

哲学カフェを含め、あっちこっちの面白そうな活動に参加してみた記録です。

刈谷日劇『ハッピーアワー』勝手におしゃべりの会

4月9日（土）

さろんつながりのお友達Yさんから勧められていた濱口竜介監督の映画。観てみたいなあと思
っていたら、上映中の映画館で感想を話す会があるのを見つけて行ってきました。

『ハッピーアワー』は一気に観ると5時間を越える上映時間です（3部に分けて上映してまし
た）。それでも感想会では「長いけど削れるところが見つからない」という発言をする人がい
て、私もそう思いました。どの場面にも心に残る登場人物たちのやりとりや台詞がちりばめら
れています。主人公は女性たち4人、それぞれに仕事や家庭があり、一見穏やかな暮らしや人
間関係です。でも話が進むにつれて、ひとりひとりの中に渦巻いているものや緊張感が少しずつ
見え隠れするようになります。それにとっても心が動かされました。

感想会の話題の中心は「登場人物の中で、共感できる人できない人」でした。私はその中でも、
共感できない人や腑に落ちない場面について語られている時の熱さや納得いっていない感じが
興味深かったです。いろいろな言葉や発言するときの態度でその違和感が表現されていて、聞
いているのがとても面白かったです。友人・配偶者・子ども・同僚などに向かっていく主人公
の女性たちの姿と、自分の人間関係のつくり方や人生観を重ねてみようとすると、重ならない
部分やズレに気づかされます。それがひとりひとりの発言に現れているように思いました。ご
夫婦で参加されている方もいたり、参加者の男女比のバランスもちょうど半々くらいで男性と
女性の解釈を比べられたことも、感想会に参加したからこそでした。面白い感想会に参加でき
たのでうれしかったです。振り返ってみると、私はこの映画と感想会で「自分がどうしても折
り合いのつけられない違和感を持ってしまった時、何を支えにその違和感に向き合えばいいの
か」考えていたように思います。

『今の私は本当になりたかった自分なのか？本当に伝えたいことを言葉にできているのか？ゆ

つくりと、迷いながら発せられる彼女たちの一言一言が、観ている者にスリリングな感動を届けてくれる。』(映画公式サイトより)

映画『ハッピーアワー』公式サイト (5月～6月にかけて東京で上映予定あり！)

<http://hh.fictive.jp/ja/>

刈谷日劇 (月イチで映画に関するおしゃべり会を開催している映画館)

<http://kariyanichigeki.com/>

【付録】

コトバをハーバリウムする

本のコトバから #07

「確かに私は考え方も生き方も小さいつまらない女なのかもしれないですけど、私なりにこのお店にずっと立ってきた誇りがあります。つまらない人間なんてこの世にはいないんです。どんなにつまらなく見えても、その見る側の目の問題なんだと、今ではほんとうに思っています。」

——よしもとばなな『サーカスナイト』

歌のコトバから #07

「消えないうちに愛を 預けておくから
切ないときには 開けてみればいい
YES - YES - YES…」

——オフコース『YES - YES - YES』(作詞：小田和正)

【付録】

さろんアーカイブの遊歩道 #01

カテゴリ：【さろん哲学 議事録】 第1回

テーマ： 「精神的な向上心を求めることは善か？」

開催日： 2010年9月11日

<http://salon-public.com/archives/category/023/page/5>



記念すべき初回の哲学カフェの記録。記録に書かれているものだけを読むと、「けっこう哲学対話できてる？」という気にもなるけど、実際はどうだったのだろう。さいきんは哲学対話という対話にやり方にずいぶん慣れて出てきているはずだが、ほんとうに「上達している」のかも改めて考えてみてもいいかもしれない、と思う。

こんな風に考えるのも”向上心”の一種なのか、どうか。議事録にまとめられている、「向上心と競争心は同じものではないのか？異なるのか」という指摘が面白い。

【さろん】 イベントカレンダー <http://salon-public.com/> ご予約受付中

- ▽ 【さろん哲学】 哲学カフェ #69
5/2 1(土) 15時 - 17時@渋谷 / テーマ「公」
 - ▽ 【朝さろん】 読書会 #60
6/1 2(日) 9時 - 12時@渋谷 / 『skmt 坂本龍一とは誰か』坂本龍一 (ちくま文庫)
 - ▽ 【さろん哲学】 哲学カフェ #70
6/1 8(土) 15時 - 17時@未定 / テーマ「未定」
 - ▽ 【朝さろん】 読書会 #61
7/1 4(木) 7時 - 8時@渋谷 / 『猟銃』井上靖 (新潮文庫)
-

編集後記

メールニュース第67号をお届けします。

GWも過ぎ、海の日まで旗日のない代り映えのしない日常がやってきましたね。ほんとにGWが終わると「ああこの生活がふだんの景色なんだよなー」と実感します。連休からのリハビリ(?)に、ぜひ来週のさろん哲学へいらしてみませんか？来週のテーマは「公」です。今回は会場が品川のお店になっていますのでご注意ください。

今年度も「哲学プラクティス連絡会」が開催が決定。
8月27日(土)、28日(日) (会場: 立教大学 池袋キャンパス)。
発表の募集も行っているそうです。
<http://philosophicalpractice.jp/>

来月は6月。だんだんと梅雨仕度も気になりますが、いまはこの気持ちのいい五月晴れをぞんぶんに楽しみましょう。つい先日の朝さろん『沈黙』のときも、ずいぶん陽が高く強くなっていて、梅雨の先の夏を早くも予感させました。

それではまた次号でお会いしましょう。

編集: (フクロウ)

さろん | Mail News 2016/5/15

⇒次号 (6月1日発行予定)

さろん Mail News 第67号 / 2016年5月15日発行

編集・発行: さろん

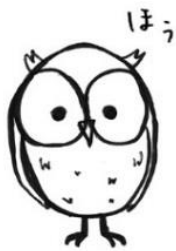
salontetsugaku@gmail.com

<http://salon-public.com/>

<https://twitter.com/salontetsugaku/>

<https://www.facebook.com/salontetsugaku/>

-
- ◇ 「さろん」にお知らせいただいたお名前・メールアドレスなどの個人情報は、当会からのご案内のためだけに使用いたします。
また、ご本人の同意なく第三者への提供はいたしません。
 - ◇ 「Mail News」の無断転載はご遠慮ください。転載ご希望の場合はご連絡願います。
バックナンバーはHPからご覧いただけます。
 - ◇ 【Twitter】 <https://twitter.com/salontetsugaku>
 - ◇ 【Facebook】 <https://www.facebook.com/salontetsugaku/>
 - ◇ 【ホームページ】 <http://salon-public.com/>
 - 「さろん哲学」Web サイト <http://salon-public.com/tetsugaku/>
 - 「朝さろん」 Web サイト <http://salon-public.com/asa/>
 - 「さろん工房」Web サイト <http://salon-public.com/koubou/>



"copyright (c) 2011-2016 さろん. All rights reserved."
